

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 12	ダイズのウコンノメイガに対する クロラントラニリプロール水和剤の防除効果
------	---

宮城県古川農業試験場

要約

クロラントラニリプロール水和剤の茎葉散布はダイズ害虫のウコンノメイガに対して、多発条件下でも高い防除効果を示す。

1 取り上げた理由

クロラントラニリプロール水和剤はジアミド系殺虫剤であり、チョウ目害虫に高い殺虫効果を示すことが知られている。本薬剤は近年ダイズのチョウ目害虫を対象に農薬登録されたことから、ダイズ食葉性害虫のウコンノメイガにおいて防除試験を実施し、その効果が認められたため普及情報とする。

2 普及情報

(1) クロラントラニリプロール水和剤はウコンノメイガに対して安定的に防除効果を示し、多発条件下でも高い防除効果を示す（図1、図2）。

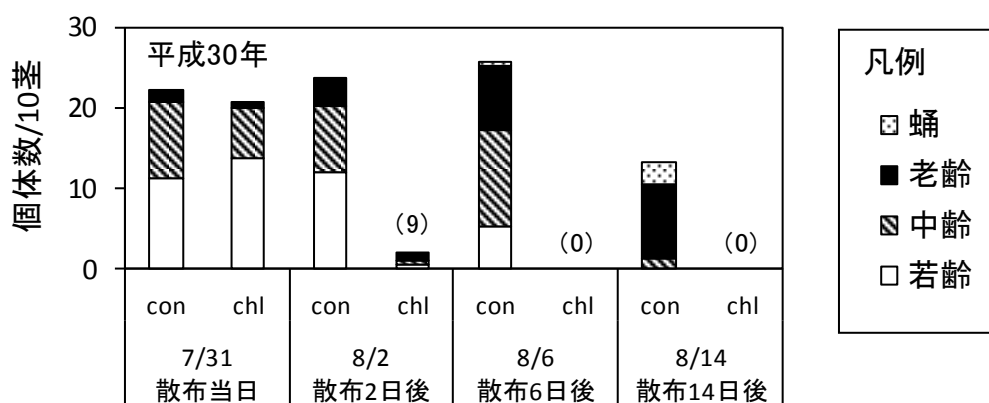


図1 ウコンノメイガに対するクロラントラニリプロール水和剤の防除効果（平成30年）

注1) 品種：タンレイ，平成30年5月23日播種

注2) con：無処理区，chl：クロラントラニリプロール水和剤4,000倍処理区

注3) ()内の数値は補正密度指数を示す。補正密度指数 = $(Ta \times Cb) / (Tb \times Ca) \times 100$

Ta：処理区の散布後虫数 Ca：無処理区の散布後虫数 Tb：処理区の散布前虫数 Cb：無処理区の散布前虫数

注4) 8月第1半旬の1茎当たり葉巻数は3.3個であり，要防除水準(減収率5%，1.3個)を超えた条件での試験。

3 利活用の留意点

- (1) クロラントラニリプロール水和剤の商品名は、「プレバソンプロアブル5」である。
- (2) ウコンノメイガの防除時期と要防除水準は，関連する普及に移す技術を参考にする。
- (3) 薬剤を使用する際は，最新の農薬登録情報を確認する（独立行政法人農林水産消費安全技術センタートップページ <http://www.famic.go.jp/>）。

(問い合わせ先：宮城県古川農業試験場作物環境部 電話0229-26-5100)

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

ダイズ病害虫の総合的管理技術の確立(平成 26~30 年度)

新農薬による病害虫防除に関する試験(平成 26~30 年度)

(2) 参考データ

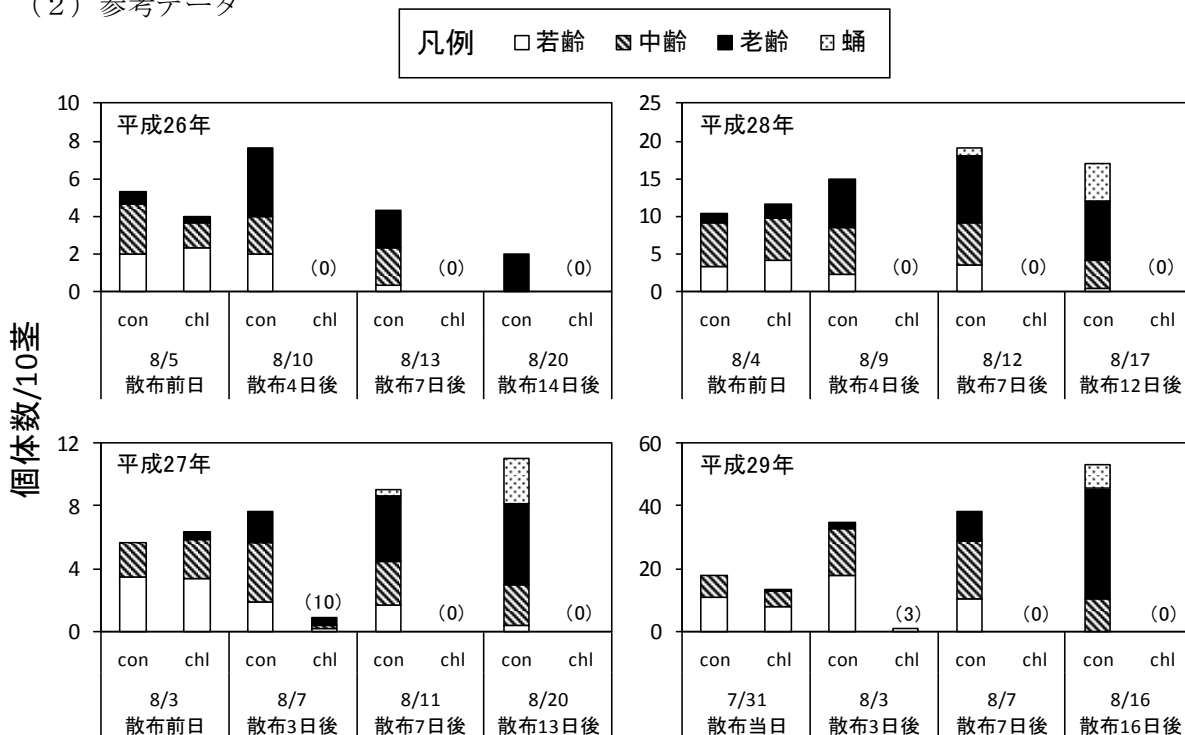


図2 ウコンノメイガに対するクロラントラニプロロール水和剤の防除効果(平成 26~29 年)

注1) 品種: タンレイ, 5月下旬~6月上旬播種

注2) 平成 26 年は蛹の発生調査を実施していない。

注3) con: 無処理区, chl: クロラントラニプロロール水和剤 4000 倍処理区

注4) ()内の数値は補正密度指数を示す。補正密度指数 = (Ta × Cb) / (Tb × Ca) × 100

Ta: 処理区の散布後虫数 Ca: 無処理区の散布後虫数 Tb: 処理区の散布前虫数 Cb: 無処理区の散布前虫数

注5) 8月第1半旬の1茎当たり葉巻数は平成 24 年~29 年の順でそれぞれ 0.9, 0.6, 1.6, 3.3 個であり, 要防除水準(減収率 5%, 1.3 個)を超えた年は平成 28~29 年である。

表1 クロラントラニプロロール水和剤のダイズにおける使用方法(平成31年1月現在)

作物名	適用病害虫	希釈倍数	使用方法	使用時期	使用回数	クロラントラニプロロールを含む農薬の総使用回数
ダイズ	ウコンノメイガ	4000倍	散布	収穫7日前まで	2回以内	2回以内
		16~32倍	無人航空機による散布			
	オオタバコガ	4000倍	散布			
	マメシクイガ	4000倍	散布			
		16~32倍	無人航空機による散布			
	ハスモンヨトウ	4000倍	散布			
16~32倍		無人航空機による散布				

(3) 発表論文等

イ 関連する普及に移す技術

ウコンノメイガの被害解析と要防除水準(普及に移す技術第 90 号参考資料)

ロ その他

(4) 共同研究機関 なし